



ヤマボウシ

撮影日：令和2年6月14日

撮影場所：秋田市 民家敷地

目次

生産現場情報：異業種からの雇用就農者が2代目～有限会社 折林ファーム～	P 1～2
営農支援情報：水稻の有効茎決定期の生育概況と今後の肥培管理及び幼穂形成期の適宜肥培管理	P 3～5
ご紹介：令和3年度全県JA稲作担当営農指導員大会	P 6
京急あきたフェア2021キックオフイベント	
「実らせよう、京急の穂」プロジェクト～バケツ稲栽培を開始しました～	P 7
JAと連携した秋田県最重点品目の生産振興の取り組み	P 8
秋田米新品種「サキホコレ」現地栽培講習会	P 9
「モ～モ～ちぎり絵展」～秋田県JAビルに展示	P 9
お知らせ：秋田県JA農業機械ビックパワーキャンペーン	P 10

異業種からの雇用就農者が2代目～有限会社 折林ファーム～

1. 法人設立の経緯

(有)折林ファームは由利本荘市の日本海沿岸に面した地域で水田、転作田での農作物生産、比内地鶏の飼育等のほか、受委託作業、土壌改良剤の散布等に取り組む農業法人です。

他地域と同様に農業従事者の高齢化、後継者不足等から地域農業の維持・発展を図るため、平成16年5月、秋田県内でも先駆的な集落営農組織「折林集落営農組合」としてスタートし、翌年には会社組織へと移行しています。

現在、平成23年に飛び込みで入社した三浦徳也（みうらとくや）さんが2代目の代表として会社を運営しています。

設 立：平成17年9月7日

代 表：三浦 徳也

構 成：3戸（令和3年現在）

所在地：由利本荘市芦川字折林122



代表 三浦徳也さん

2. 経営の概要等

現在、松ヶ崎地区で圃場整備事業が実施されていることから年次変動があるものの、令和3年計画では水稻47ha、ソバ18ha、大豆13.9ha、玉ねぎ1.1ha、ばれいしょ0.5ha、長ネギ0.5haの約81haのほか、比内地鶏12,000～13,000羽（年間出荷）の生産活動を展開しています。

水稻の直播栽培には設立当初から取り組んでおり、令和3年は水稻47haのうち30haで行っています。

玉ねぎについては、学校給食向けとして平成25年から栽培開始し、現在は西目、象潟地区等の法人及びJAとも連携して安定的な出荷・取引に努めるなど、新たな取引先も増えています。



玉ねぎ圃場（6月7日）



比内地鶏の飼養舎

比内地鶏については、周年的な飼養体系で、月間1,000～1,100羽を出荷しています。

また、6次産業化にも取り組んでおり、設立初期から国道7号線沿いに直売所を開設しています。現在の社員は10名で、年齢は19歳から45歳とかなり若く、全員異業種からの入社（就農）であり、安全・安心な農畜産物生産はもとより、効率的な工夫を凝らしながら生産性を追求しています。

3. 今後に向けて

（有）折林ファームでは職場環境づくりはもちろん、仲間づくりを大事にしており松ヶ崎地区から地域の活性化や変化・変革を地域全体に発信していきたいとの思いがあり、異業種とコラボした新たな事業展開を模索するなど、「生涯挑戦」をモットーに歩み続けています。



令和元年から稼働した新たなライスセンター

営農支援部 営農支援課 ☎018-864-2461



水稻の有効茎決定期の生育概況と今後の肥培管理及び 幼穂形成期の適宜肥培管理

気象庁は、東北地方北部は6月19日ごろに「梅雨入り」（平年6月15日ごろ、昨年6月25日ごろ）したとみられると発表しました。

今年の農作業の進捗状況は、田植作業の始期が、5月11日（平年：5月13日）、盛期は5月22日（平年：5月22日）と平年並みでした。

6月中旬の高温多照により、多くの圃場で茎数を確保できたとみられますが、地域間差および圃場間差が大きく、また5月20日以降に移植を行った圃場では茎数が少ない傾向にあります。

気象庁は、今後の気温は平年並～高い、降水量も平年並～多いと予想をしており、また、**幼穂形成期の予測も前年より早まっています（県水田総合利用課調査）**。圃場ごとに生育状況を把握し、**栄養診断に基づく施肥管理や、圃場状態に応じた水管理**をしてください。

区分	地域	始期（5%）			盛期（50%）			盛期（95%）		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年
播種作業	県北	4/12	4/11	4/13	4/18	4/18	4/18	4/26	4/26	4/26
	中央	4/10	4/12	4/11	4/18	4/19	4/18	4/28	4/28	4/27
	県南	4/19	4/19	4/20	4/25	4/26	4/25	5/1	4/30	4/30
	全県	4/11	4/12	4/12	4/22	4/22	4/22	4/30	4/30	4/30
耕起作業	県北	4/21	4/22	4/22	5/1	5/3	5/2	5/10	5/10	5/10
	中央	4/15	4/16	4/18	4/25	5/1	4/29	5/6	5/8	5/9
	県南	5/1	4/28	4/30	5/6	5/6	5/6	5/14	5/12	5/14
	全県	4/18	4/19	4/21	5/2	5/4	5/3	5/12	5/11	5/12
田植作業	県北	5/14	5/15	5/15	5/21	5/23	5/22	5/28	5/30	5/28
	中央	5/8	5/11	5/11	5/18	5/19	5/19	5/28	5/29	5/29
	県南	5/17	5/17	5/17	5/24	5/24	5/24	5/31	5/31	5/31
	全県	5/11	5/13	5/13	5/22	5/23	5/22	5/30	5/30	5/30

（秋田県農林水産部水田総合利用課発行 作況ニュース参照）

◆有効茎決定期（6月25日）の生育概況

全県の「あきたこまち」の生育（県水稻定点生育調査結果）は、草丈37.6cm（平年比103%）、茎数388本/㎡（平年比94%）、葉数8.9葉（平年差+0.3葉）、葉緑素計値44.1（平年比100%）となっています。各地域とも、「あきたこまち」は、平年に比べて草丈はやや長く、㎡当たりの茎数は少なく、葉数は多い傾向ですが、特に茎数は、地域間差、圃場間差が大きくなっています。

「ひとめぼれ」は、草丈41.0cm（平年比108%）、茎数544本/㎡（平年比108%）、葉数9.3葉（平年差+0.5葉）、葉緑素計値41.3（平年比101%）となっています。

定点調査結果（各地域振興局6月25日調査）

品種	地区	草丈			㎡当たり茎数			葉数			葉緑素計値		
		本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (葉)	前年差 (葉)	平年差 (葉)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)
あきたこまち	県北	38.5	95	102	443	83	95	9.1	0.1	0.3	43.9	101	99
	中央	38.8	93	103	355	88	87	8.9	0.0	0.2	43.5	98	100
	県南	36.3	94	103	359	80	96	8.7	-0.3	0.3	44.6	101	102
	全県	37.6	94	103	388	82	94	8.9	-0.1	0.3	44.1	100	100
ひとめぼれ	中央	41.0	97	108	544	100	108	9.3	0.1	0.5	41.3	100	101

（県農林水産部水田総合利用課発行「作況ニュース第4号」参照）

◆中干しによる分けつ抑制

目標茎数を確保した圃場では、直ちに中干しを行い、茎数が少ないほ場では、中干しの開始を遅らせるとともに、強い中干しは行わない等、圃場ごとに生育を確認して、状況に応じた栽培管理を徹底しましょう。

中干しは、無効分けつの発生を抑えるとともに、根の活力を高めて1穂粒数と千粒重を増加させる効果や、節間伸長を抑制し倒伏を軽減します。

また、中干しと合わせて溝切りを行うと中干し以降の水管理を効率的に行うことができます。

中干しは、7～10日間を目安に行い、田面に亀裂が1～2cm入り足跡が付く程度とします。

幼穂形成期に土壤水分が不足すると1穂粒数の減少を招くため、**中干しは幼穂形成期前に終了**し、間断かん水に切り替えましょう。

また、中干しが十分にできなかった場合や、生育量が不足している圃場では、中干し終了後も落水期間をやや長めの間断かん水としましょう。



◆幼穂形成期・減数分裂期

幼穂形成期（幼穂長2mm、平年7月15日頃）、減数分裂期（葉耳間長±0cm、平年7月25日頃）は、幼穂が伸長し、**粒数、千粒重に影響を及ぼす粒殻の大きさが決定する時期**であるとともに、**倒伏に影響を及ぼす下位節間が伸長する時期**でもあります。

まもなく幼穂形成期を迎えますが、**穂肥の判断は生育・栄養診断の結果**に基づいて行いましょう。



◆生育・栄養診断にもとづいた穂肥

生育診断は、草丈、茎数、葉色を測定し、理想生育と比較して生育を診断します。

栄養診断値によって幼穂形成期の稲の窒素吸収量を推定し、理想窒素吸収量と比較しその多少により追肥の時期と量を判断し粒数を制御します。生育中期の栽培管理は、理想とする生育量と比較し、生育・栄養診断を実施しながら適切に行いましょう。

なお、本年の生育は、地域差および移植時期の影響がみられることから、時期を逃さず幼穂形成期の栄養診断を実施しましょう。

有効茎決定期（6月25日）の理想生育量												
項目	草丈（cm）			茎数（本／㎡）			葉数（葉）			葉緑素計値		
	上限	理想	下限	上限	理想	下限	上限	理想	下限	上限	理想	下限
県北	36	34	33	462	428	394	8.7	8.5	8.3	43	42	41
中央	38	36	34	475	431	388	8.8	8.6	8.3	46	45	44
県南	36	34	33	378	346	314	8.6	8.4	8.1	44	43	42

幼穂形成期（7月15日）の理想生育量												
項目	草丈（cm）			茎数（本／㎡）			葉数（葉）			葉緑素計値		
	上限	理想	下限	上限	理想	下限	上限	理想	下限	上限	理想	下限
県北	62	60	57	586	552	519	11.0	10.8	10.6	42	40	39
中央	63	61	58	559	515	471	10.9	10.7	10.5	44	42	40
県南	64	62	60	484	463	443	11.0	10.9	10.7	43	42	41

（県農林水産部水田総合利用課発行「稲作指導指針」参照）



令和3年度全県JA稲作担当営農指導員大会

JA全農あきたは6月9日、全県JA稲作担当営農指導員大会を開催し、県内JAの稲作担当指導員や関係団体職員らが参加しました。

この大会は、本県の稲作生産者の営農を支援し、生産から販売までの産地振興を牽引する営農指導員のさらなる栽培技術力向上を図り、生産者の「営農安定・手取り最大化」の実現、さらには秋田米のシェア拡大・系統集荷結集に資することを目的とし、今年で3回目の開催となりました。



大会では、JA全農あきた米穀部の児玉徹参与が「温暖化時代を生き抜く稲づくり」について講演したほか、秋田県農業試験場から「食味官能評価について」と「秋田県における水稻病害の発生生態と防除について」講演しました。

また、秋田県農林水産部から「秋田米新品種ブランド戦略の進捗状況について」として、秋田米新品種「サキホコレ」のこれまでの取り組みと今後のブランド化戦略などについて情報提供がありました。

このほか、「あきたこまち」を基準米として秋田米3銘柄（「ひとめぼれ」、「サキホコレ」、「つぶぞろい」）の食味官能試験も行いました。大会の最後には、栽培技術の研鑽と品質・食味の高位安定生産のさらなる高みを目指し、営農指導アクションプランを実践していくことを申し合わせ、意思統一を図りました。

京急あきたフェア2021キックオフイベント
「実らせよう、京急の穂」プロジェクト
～バケツ稲栽培を開始しました～

京浜急行電鉄株式会社とJ A全農あきたは、京急あきたフェア2021のキックオフイベントとして、「実らせよう、京急の穂」プロジェクトを始動し、京急グループ施設で「あきたこまち」のバケツ稲栽培を開始しました。

「京急あきたフェア」は今年で13回目の開催となるイベントで、例年、京急グループ社員が秋田を訪れ、田植えや稲刈りを体験、地元の高校生には沿線店舗での職業体験を提供するなど、人材交流をととして「食」の大切さや環境配慮の必要性を伝えています。



今年度は初の試みとして、京急グループ施設にて、京急電鉄を始め京急ストアや京急百貨店などの流通部門の職員とJ A全農あきた消費地販売事務所の職員がバケツで「あきたこまち」の栽培に挑戦しました。

秋田からはリモートで栽培方法をレクチャーしながら作業をすすめ、1本1本丁寧に植えていきました。夏の暑さに負けないように、プールでバケツ自体を水で冷やし水温管理しながら、京急キッズランドや京急キッズファンを利用している子どもたちなどと一緒にその生育を見守ります。



J A全農あきた米穀部敷地内にもオリジナルプールを設置し、「バケツ稲」を栽培しました。栽培・生育の様子は、J A全農あきたのInstagramで紹介していきます。

米穀部 米穀販売課 ☎018-845-8040



ＪＡと連携した秋田県最重点品目の生産振興の取り組み

ＪＡ秋田おばこねぎ部会栽培講習会開催

6月10日、美郷町千畑地区で「ＪＡ秋田おばこねぎ部会栽培講習会」が行われました。講習会では仙北地域振興局の担当者より、今年度の天候の経過や今後の栽培管理について情報提供があり例年より早い発生が見込まれる病害虫への防除徹底の指導などがありました。また、会場を提供していただいた生産者による肥培管理方法の紹介や、土寄せの実演があり、参加者たちは工夫しているポイントや土寄せ時の注意点などを熱心に確認していました。



ＪＡあきた湖東「早生品種の枝豆視察・巡回」



6月22日、ＪＡあきた湖東主催の「早生品種の枝豆視察・巡回」が井川町で行われました。秋田地域振興局の担当者より、開花期までの生育促進や、開花期以降の病害虫について情報提供がありました。また、ＪＡ担当者からは、収穫期までの草丈の生長促進が収量増の鍵であることを生産者へ周知したほか肥料や農薬の散布量や回数、タイミングについての説明がありました。

ＪＡ全農あきたはＪＡと連携し、今後も本県の最重点品目の生産振興に引き続き努めてまいります。



秋田米新品種「サキホコレ」現地栽培講習会

6月22日、J A秋田おばこ主催の「サキホコレ現地栽培講習会」が先行作付に取り組む圃場で行われ、県担当者やJ A担当者、先行作付に取り組む生産者、J A全農あきたの職員などが参加しました。

講習会では、県の担当者から現在の生育状況と、品質・食味基準をクリアすべき草丈、茎の数、葉の色などの目標値をもとに今後の管理（深水管理や溝堀りの実施、中干し）を行うことの重要性のほか、害虫被害を抑えるための草刈りの徹底や、葉いもちの早期発見に努めることなどの注意事項についても説明がありました。

5月中旬に田植えがおこなわれた「サキホコレ」の稲は、背丈が30センチほどまで育っており、参加者たちは茎の数や葉の色などについて生育状況の確認も行いました。田植えが終わった5月下旬は低温・日照不足により生育が遅れていましたが、6月に入ってから気温の高い日が続き、生育は順調に回復しています。先行作付に取り組む各地域においても、同様に「サキホコレ」の現地栽培講習会が行われています。



米穀部 米穀販売課 ☎018-845-8040



「モ〜モ〜ちぎり絵展」〜秋田県J Aビルに展示

秋田県牛乳普及協会（事務局：J A全農あきた）は、「モ〜モ〜ちぎり絵展」と題して1歳〜12歳までの子供たちが制作したちぎり絵47作品を、秋田県J Aビル1Fに展示しました。この展示は6月の「牛乳月間」にあわせており、酪農家の皆さんが真心込めて生産している牛乳を子供たちにたくさん飲んでもらい、牛乳に関心を持ってもらうことを目的に実施しました。担当者は「子供たちの作品には大人を笑顔にする力があるので、ぜひ多くの人に見てもらいたい」と話しました。



園芸畜産部 畜産酪農課 ☎018-864-2506



JA・JA全農あきた



秋田県JA農業機械

BIG POWER CAMPAIGN

ビッグパワーキャンペーン

第2弾



【ご契約期間】2021年 6/1^火 ▶ 7/31^土
 ※但し、トラクター、乗用田植機については9月30日(木)まで
 期間内に**最寄りのJAで**
ご契約合計100万円(税抜き)以上の方へ
 ご契約金額に応じて秋田県食肉流通公社の
秋田県産農畜産物詰合せセットをプレゼントいたします!
※補助事業物件は対象外となりますので予めご了承ください。



キャンペーンについてのお問い合わせは、お近くのJAへお気軽におたずねください。

Za・あぐりふおーむ
 Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
 第17号 令和3年7月5日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462